

近況報告

第13期OB 矢野 瑞喜

こうしてOBとしてエッセイを執筆するにあたり、卒業してから1年が経ったということを実感します。

社会人1年目、沢山の出会い、出来事がありましたが、終わってみると早いもので、あっという間でした。総合商社に入社した私の初期配属は「木材資源事業部」。ロシア・ニュージーランドで所有する森林資源を持続可能な方式で伐採し、主に日本・中国・韓国に販売する部署です。所属するロシア部隊では、1年に200隻程の船を手配し、木材をトレードしています。毎船、客先ごとの契約書作成、客先への船動静の連絡、日本国内でのデリバリー業務等が、私の担当です。

仕事の概要はこの程度にして、折角なので、小野ゼミでの経験が活かた、会社での行事を1つピックアップします。私の所属する「メディア・生活関連部門」では、毎年同部門新人が新規ビジネスや独自の業界分析を半年かけて研究し、部門長や本部長の前で提案、プレゼンする恒例行事があります。そこでは順位も付けられるのですが、見事同期22人の中で優秀賞を頂くことが出来ました。発表に当たり、資料の作り方や発表の仕方、上司への内容相談の仕方等、小野ゼミで培った経験が活かしていると様々な場面で実感できました。



新人発表打ち上げにて、賞状を掲げて部門同期と写真に納まる著者（前列右から2番目）

部の先輩方は、全員が煌々と輝く自分の強みを持っていて、尊敬できる人ばかりです。時系列が逆転しますが、配属後、仕事を覚え始めた時期には、正直自分の未熟さに悩み、体育會でもなければ、留学経験もない自分が何故採用されたのだろうか、本当にこれからやっつけていけるのだろうか、本気で悩みました。そんな時、社内で上記のような行事があり、小野ゼミで培った経験が私に自信を与えてくれました。



海外クライアントの接待を終えて第13期同期会に駆けつけた著者
(右から2番目)

尊敬できる先輩方に囲まれて仕事ができていることは、非常に幸せな環境であり、この環境を活かして、どんどん先輩方の良い所を盗んでいこう、そう思って今は仕事に取り組んでいます。貿易実務、会計、商材知識などなど、まだまだ覚えなければいけないことだらけですが、「熱心な素人は玄人に優る」という当社のスローガンを胸に、小野ゼミ OB として恥ずかしくないよう、引き続き日々奮闘していきたいと思えます。



第13期同期会にて、同期の西森氏の語りを聴く著者(右端)